

スポーツ好きな仲間とまちづくり

天神町在住の地頭園さんは、昭和34年生まれです。大学卒業後、市消防局のレスキュー隊で10年間働きました。腰を痛めたのをきっかけに平成元年に市消防局を辞め、ブティック（洋装店）を始めました。開店のときは、改装のための大工仕事やチラシ広告など何でも自分でやったそうです。レスキュー隊やブティックでの仕事の体験は、ボランティア活動にも生かせるとのこと。



NPO「チームサセボ」理事長
地頭園 哲郎さん

ボランティア活動を始めるきっかけは、「商店街の中で働き始めたとき、子どもたちが道で会ってもあいさつしないし、驚くほど高い買い物をするなど、子どもたちを取り巻く環境がどこかおかしくなっている」と感じたからだそうです。

チームサセボの結成の経緯については、「学校は学力に偏りがちで、中学生・高校生は体力をもてあましているようです。登校拒否も増えているし、地域の人々と一緒になって、体を動かすことから始めようと有志が集まりました」と語りました。チームサセボの目的は、子どもたちを元気にする活動を通して、楽しく明るいまちづくりをすることだそうです。

NPO設立の経緯については、「最初からNPOを目的に始めたわけではありません。NPOを設立した方が、自分たちの考えを推進しやすくなるからです。とりあえず今は事務所と、一緒に活動してくれるもっと多くの仲間が欲しい」と語りました。また、時間が無くてボランティア活動はできないと言う人には、「私も勤務時間の合間に活動しています。参加できるときでいいです」と答えているそうです。

今新しい試みとして、市内のお寺で「寺子屋事業」を計画しています。お寺は、かつて癒しと、学びと、芸能の場でした。「地域と交流しながらまちづくり」をするというチームサセボの考え方にかなった事業のようです。

スポーツ



合気道・ヨガの会



地域の子どもたちと白浜の清掃活動

NPO「チームサセボ」
平成13年に設立。それぞれの会員が持つ、技術、経験、人脈などを生かし、市民の心と体を健康にするための事業を展開しています。
事業内容は、野球、サッカー、ラグビー、エアロビクス、ヨガ、合気道などのスポーツイベントのほか、レクリエーション、音楽イベントの開催などです。
お尋ね チームサセボ事務局
(☎) 091882 立石さん

異文化交流の橋渡しに

柚木町在住の栗林さんは、昭和28年生まれです。平成11年に佐世保市に帰郷し、現在は家具業のほか、通訳、画家の仕事をしています。帰郷前は、仕事で長年アメリカや東南アジアの企業と取引していました。このときの体験で、世界経済は各国間での分業の時代に入り、これからは世界の国々が互いに協力しなければやっていけないことを実感したとのこと。



佐世保国際交流ボランティア協会
代表 栗林弘さん

この海外経験を生かして、ボランティア活動をやってみようと思い、佐世保国際交流ボランティア協会に入会し、平成12年に代表になりました。

「会員のみなさんは熱心に参加していますが、ボランティア活動に対する各人の考え方もさまざまで、また、それぞれ仕事を持っているため活動時間も限られており、必ずしも十分な活動ができているとは言えません」

「国際ボランティア活動で大切なのは、異国の地で困っている人を助けようとする優しい心です。このことが語学力以上に重要で、相手を手助けすることが、結果として自らを成長させることになると思います」

栗林さんの個人的な希望としては、「海外の姉妹都市との関係を活用し、留学や経済交流の橋渡しの仕事も手がけてみたい」とのことです。

今後の活動については、「継続が大事です。最初から百点満点とはいきません。異なった生活習慣や文化を持つ人々と交流するのですから、活動をすればさまざまな問題が起きることもあります。これらの問題を前向きに受けとめることが大切です。異文化交流で最も大切なことは、お互いが相手の考えを理解・尊重し、協力して、試練を乗り越えていくことです。そうすることで、国籍や人種を超えた、固い友情のきずなが生まれると思います」と語りました。

国際交流



書道クラス



日本語クラス

さまざまな国のの人々とふれあいが、本市の国際化を図るために、平成10年に設立されました。ふれあいセンター内に事務局があり、事務局員が午前10時から午後7時まで常駐しています。
活動内容は、外国人への日本語学習支援、通訳・翻訳活動、姉妹都市との交流、留学生など外国

佐世保国際交流ボランティア協会 (FIS)

人への生活相談 日本 風俗・文化の紹介などです。
ふれあいセンター2階の研修室で定期的な開かれてる日本語クラスでは、教える側の日本人と習う側の外国人が、それぞれ数人の小グループに分かれ、自由な雰囲気勉強しています。外国人は、語学学校の教師、米軍人の家族、留学生などです。毎回参加している手塚京子さんは、「日本語学習用の教科書を使用しては、日本語学習の教科書を使用しているが、できるだけ自由な会話形式になるようにしています。自分の英語の勉強にもなるし、多くの外国人と知り合うことができました」と語ってくれました。

お尋ね 佐世保国際交流ボランティア協会事務局 (☎) 09117



国際交流文化祭でのバザー風景

ボランティアとNPOの違い
ボランティア活動は、社会奉仕のため無償かつ自発的に労働を提供することです。しかし、交通費、食費、宿泊費、材料費など活動に伴う実費を受け取ることもあります。
これに対して、NPO活動は、教育、文化、医療、国際協力など、さまざまな社会活動を組織的、自発的に行う民間非営利団体で、利潤を分配することはできません。平成10年にNPO法案が成立。佐世保市のNPO法人は現在13団体あります。

おわりに

ボランティア活動を始めたきっかけには、社会のために役立ちたい自分の勉強のため、身近に必要とする人がいたから、新しい仲間づくり、学校や会社から勧められたなどの理由があげられます。また、やってみて楽しいというのが、ボランティア活動の基本で、そう感じている人が続いているようです。
行政の目が行き届かない細かなところでもボランティア活動が手助けになる場合もあります。また、活動がしやすい環境づくりなど行政の対応も必要となります。

